

ぶんすいれい
吉野川の分水嶺を歩く！



翠波峰から見た金砂湖(柳瀬ダム)の雲海と御来光

こんにちは。山登り好きの「岳」です。

山好きな私が吉野川の分水嶺を歩きながら、読者の皆様に吉野川流域の山々の素晴らしさと現状を紹介したいと思います。

第12回は、愛媛県側分水嶺の新居浜市の二ツ岳周辺と徳島県北側分水嶺の三好市六地藏から猪ノ鼻峠・竜王山・大滝山・矢筈山を經由して、徳島県鳴門市と香川県東かがわ市の境にある大坂峠までを紹介し



床鍋登山口から権現越に向かう登山道



まずは、11月3日の天気は晴れで絶好の登山日和の中、新居浜市別子山の床鍋登山口から権現山、黒岳、エビラ岳、ニッ岳を登り、峨蔵越までを歩いてきました。(流域図参照①)

今回歩いた山域は、以前歩いた東赤石山(VOL.11参照)からニッ岳を連なる山域は古来より峨蔵山と呼ばれ、岩峰の険しい山域です。権現山からニッ岳までの間は登山道として整備されておらず、山登りのガイドなどでは熟練者コースになっています。

床鍋登山口から分水嶺までの登山道は葉っぱも黄色付いて、秋を感じました。登り切って分水嶺の権現越の枯れた笹原を通して、権現山を越え、黒岳の行く途中に、立派な岩峰の「日本石」があります。その「日本石」にちょっと寄り道し、へっぴり腰になりながら記念撮影し、その後、尖った三角錐型の黒岳、台形型のエビラ岳、二角獣のようにそびえるイワカガミ岳とニッ岳へと進みました。イワカガミ岳からニッ岳に向かう途中の稜線は岩峰もあり、その岩峰を迂回しながら、進みました。



権現越から見た権現山



日本石に跨がる岳



三角錐の黒岳



エビラ岳とニッ岳



二角獣のニッ岳



岩稜帯の険しい山並み

四国百名山の一つであるニッ岳山頂に登った後は、峨蔵越まで急な登山道を下り、途中にニッ岳のシンボルである「鯛の頭」があり、鯛の頭の上に登ることも出来ます。

その後、さらに下り別子銅山と瀬戸内を結ぶ重要な街道であった峨蔵越(VOL.23参照)に到着しました。



ニッ岳山頂付近にある危険を促す看板



ニッ岳のシンボル「鯛の頭」



峨蔵越

これから紹介するコースの吉野川北側の分水嶺は、以前紹介した雲辺寺(VOL.23)の東側の六地藏越から、猪ノ鼻峠、三頭越、竜王峠、竜王山、女体山、鶴峠、大山を経て大坂峠までのコースです。このコースは、徳島県(阿波)と香川県(讃岐)の県境にある阿讃山脈の稜線です。この阿讃山脈沿いには、香川県豊浜町の余木崎から県境の稜線を辿り徳島県鳴門市北灘町長浜までの120km 辿る阿讃縦走路が整備されています。吉野川の分水嶺沿いの大部分は、この阿讃縦走路が通っています。

10月27日は、三好市池田町の六地藏越から旧猪ノ鼻峠、箸蔵街道、東山峠を経て、徳島県三好市と香川県まんのう町の境にある大川山まで歩いてきました。(流域図参照②)

六地藏越から入山し、東へ歩いていくと中蓮寺峰があります。ここを通っている中蓮寺越の道はかつて阿波と讃岐を結ぶ交易の道として栄えたようです。また、一説によるとこの道は讃岐と阿波の博打打が行き来した道ともいわれています。



六地藏越



休憩所のある中蓮寺越

中蓮寺峰から東には四国のみちが整備されており、歩きやすい登山道を進むと岩を開削して作られた旧猪ノ鼻峠があります。旧猪ノ鼻峠も阿波と讃岐を結ぶ要路で、中蓮寺越とともに昭和42年に猪ノ鼻峠トンネルなど7つのトンネルが出来るまで使われていたそうです。



旧猪ノ鼻峠

さらに東に進むと歴史を感じる箸蔵街道があります。この街道は、讃岐のこんぴらさんと阿波の箸蔵寺を結ぶ信仰の道として栄えた旧街道で、この街道沿いには丁石や石仏が残り、二軒茶屋という土地があります。ここにはもともと二軒の宿があり、宿泊と茶の接待をしていたことから「二軒茶屋」という名がついたといわれています。この宿は昭和36年頃まであったようです。昭和3年トンネルが完成し、鉄道が通じるまでここを通る人は多く特に春と秋の「はしくら市」の時などかなりの賑わいを見せていたようです。



整備された「四国のみち」



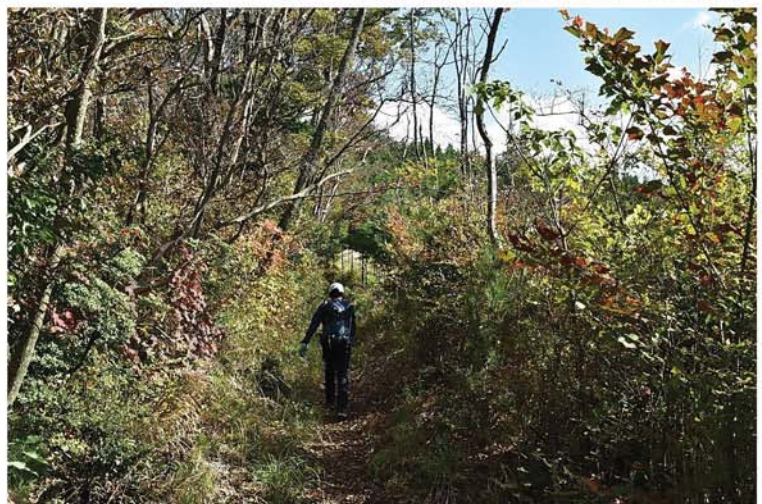
宿泊と茶の接待がされていた「二軒茶屋」



お参りすると「いほ」が治ると伝えられる「いほ地蔵」



街道沿いに残る石仏



登山道沿の木の葉は、赤く色づいていました。

11月10日は、大川山から三頭越、竜王山などを経て、美馬市の県道7号美馬塩江線の相栗峠まで歩いてきました。(流域図参照③)

最初に登った大川山(1,042m)は香川県の2番目に高い山です。山頂には香川県内で1番高いところに鎮座している大川神社があります。この神社は祈雨の神様ということで、土器川下流域に多く祀られています。また、山頂付近には大川山キャンプ場があり、この日は一張りのテントが張られ、キャンプをしていました。

大川山から東に進むと三好市とまんのう町の境付近に隣の流域である土器川の源流の碑があります。源流のイメージとは違って、水が湧いているところにコンクリートの水槽があり、鯉が泳いでいました。



大川山の山頂にある大川神社



大川神社境内の紅葉



大川山から東へ続く縦走路



大川山キャンプ場に張られたテント



土器川源流の碑



土器川の源流で泳ぐ鯉



三頭山から見た吉野川

さらに東に向かうと三頭越があります。この三頭越は讃岐国と阿波国を結ぶ主要な道の一つで、^{かりこうし}借耕牛の行き来があり、金比羅宮などの参拝の街道として往来が盛んだったと言われています。

三頭越から南に20分ほど歩いたところに三頭山があり、山頂付近の木は見事に紅葉していました。

三頭山山頂からは、吉野川の河口や眉山まで見渡せ、また、スカイスportsも楽しむことが出来、過去にハンググライディング日本選手権大会も開かれたことがあります。

三頭越に戻り、アップダウンが多い登山道をさらに東に進み、立派な石碑がある竜王越をさらに進むと阿讃山脈の最高峰、香川県の最高峰の竜王山（標高 1059.8m）があります。この竜王山は二つの峰を持ち、西の峰は阿波竜王、東の峰は讃岐竜王と呼ばれています。



三頭山山頂付近の紅葉（N村氏撮影）



三頭山から見た竜王山



竜王山へ向うアップダウンの多い登山道



三頭山山頂の「美馬スカイスports」



竜王峠の立派な石碑



相栗峠

11月17日は相栗峠から大滝山、国道193号清水峠、高仙山を経て、香川県三木町の県道3号志度山川線まで歩いてきました。(流域図参照④)

相栗峠から入山し、いきなりトラロープが何本も繋がっている急登を登っていきます。その後は大滝山山頂までなだらかな上り下りの登山道で途中には休憩所も設けられています。大滝山山頂付近には、四国別格二十霊場二十番札所の大瀧寺おおたきじがあります。四国別格二十霊場は弘法大師と関わりの深い寺社や霊跡を総じて番外霊場と呼びそれらの番外霊場のうち20の寺院のことを呼びます。

大滝山から北に向きを変え、途中、阿讃縦走路から外れ分水嶺上を進み、徳島県美馬市と香川県三木町境の清水峠を通過して、高仙山まで歩きました。高仙山山頂付近には、公園が整備されていますが、施設の老朽化などにより平成26年4月より運営休止になっています。山頂の北側にある高仙山展望台からは、屋島、五剣山、高松サンポートの高松シンボルタワーが見渡せました。



ロープがたらされている長い急登



快適な登山道



大滝山の休憩所



四国別格二十霊場 二十番札所 大瀧寺



清水峠



運営休止になっている高仙山山頂公園



高松シンボルタワー

屋島

五剣山

高仙山展望台から見た高松市街地

11月23日は県道3号志度山川線から矢筈山、女体山、東女体山、^{なかお}中尾峠を経て、香川県東かがわ市と徳島県阿波市土成町の境にある鶉峠まで歩いてきました。(流域図参照⑤)

県道3号志度山川線から入山し、登山道らしき道はありませんでしたが、分水嶺上を歩かずには矢筈山に登りました。矢筈山の由来は、2つのピークが合わさって山容を形作っていることと言われ、四国百名山の一つです。その矢筈山から東には、3つの女体山があり、山名は西から女体山、女体山、東女体山です。女体山の由来は、長尾町から見ると女性が上向きで横たわっている姿に見えることから呼ばれているという説もあるそうです。

矢筈山から西の女体山までは分水嶺上に登山道がありますが、そこから東女体山までは登山道はなく、分水嶺から少し離れた下側には林道が整備されています。さらに東女体山から東に道を進み、大坂峠から南に向きを変え、中尾峠を通過して、日が沈んだ頃に鶉峠に到着しました。



国道377号から見た矢筈山と女体山



女体山の尾根は登山道が整備されていない



女体山山頂（西側の峰）



女体山山頂（東側の峰）



東女体山山頂

12月1日は鵜峠から大山を経て、大坂峠まで歩きました。(流域図参照⑥)

鵜峠は崩壊の危険性があることから現在鵜の田尾トンネル付近の分岐から封鎖されています。封鎖されたところから峠までの約4kmを歩き、鵜峠から入山します。登山道は歩きやすい道でしたが、イノシシが荒らした後だらけで、又タ場もありました。この日の最高到達点の大山山頂に到着後、大山から約20分ほど下り、四国別格二十霊場一番札所の大山寺^{だいさんじ}まで足を延ばしました。

大山寺には、弁慶が植えた銀杏から育ったといわれる大きなイチョウの木が境内にドーンと立っていました。イチョウの葉はほとんど落ちてましたが落葉が黄色の絨毯の様に綺麗でした。また、源義経が献納した駿馬「薄雪」の墓もあり、源義経に関する言い伝えが残っている寺でした。

その後、大山山頂に戻り、弁慶が通ったと伝えられる一本松越を通して東に進み、板野町の木に指定されている^{あせび}馬酔木が自生しているあせび公園に到着しました。公園内には大坂峠展望台があり、引田町が一望できます。展望台から下っていくと屋島に向かう源義経が越えたと言われる大坂峠に到着しました。

今回紹介した阿讃山脈沿いの分水嶺には、古くから阿波の国と讃岐の国を結ぶ峠として、猪ノ鼻峠、三頭峠、竜王峠、相栗峠、大坂峠などが主要路として使用され、江戸時代から昭和中期にかけて借耕牛などの行き来などがありました。

「借耕牛」は、讃岐の国の農繁期に阿波の国の山間部の農家「かりこさん」から農作業のために借りていた農耕牛を「借耕牛」というようになったと言われ、また、讃岐の農繁期が終わると米を積んで帰ったため、米取り牛とも言われていたそうです。

「讃岐男に阿波女」とは、借耕牛の派遣元の「かりこさん」の娘が牛の面倒を見るために牛とともに派遣をされよく働き、また、阿波の国の藍の収穫期には讃岐の国から出稼ぎの男が阿波の国にやっていたことから、讃岐の男性と阿波の女性はともに良く働き相性が良いという意味で伝えられるようです。

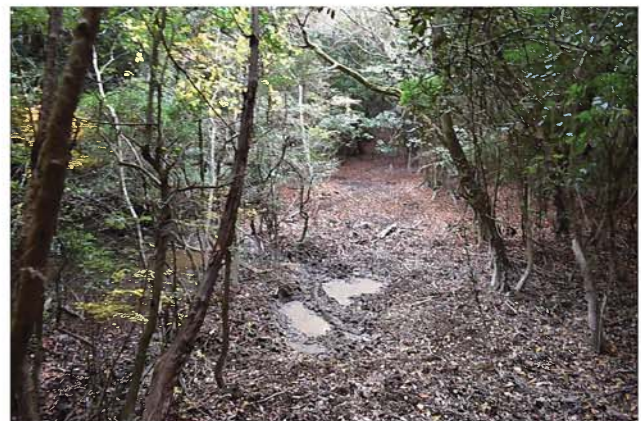
このような歴史を感じる峠を見てみませんか？



鵜峠



イノシシが荒らした登山道



イノシシの又タ場



大山寺境内の大きなイチョウの木



駿馬「薄雪」の墓



あせび公園



弁慶が通ったと伝えられる一本松越



大坂峠展望台



大坂峠

- ◇今回歩いた距離 119.0km
- ◇今回歩いた分水嶺の距離 84.6km
- 今まで歩いた距離 402.9km／全長約 428km
- ◇分水嶺制覇まで、残り約 25km